

## 平成 28 年度埼玉県・オハイオ州スカラシップ<総合系> 月例報告書 2 月

今枝沙織

### 「多様な価値観」

皆様こんにちは。新学期も 1 か月以上が経過し、授業の内容も難しくなっておりまして。私は、後期から学部の授業にチャレンジしているのですが、宿題がとて多くて、毎日が大変です。例えば、火曜日に両面 A4 の読み物を 30 ページ渡され、木曜日までに読んだうえで、授業でそれに関するディスカッションをし、自分なりに意見を述べるといったものです。周囲に手伝ってもらいながら、何とか授業に参加しています。もう諦めたいとも何度も考えてしまいますが、こうしてレポートを書いていると、勉強に 100%集中できる自分は、恵まれた環境なのだたと再認識いたします。胸を張って埼玉に帰れるよう、あと 2 か月頑張っていこうと思います。

### 「冬景色」

先月も紹介しましたとおり、フィンドレーの冬はとて厳しいものです。歩道は除雪されていない部分も多く、わだちを歩くことになり、徒歩での移動は危険だと感じるときもあります。埼玉にいた時は、雪の日に車を運転するとスリップして危ないと思っていましたが、こちらでは全く逆の認識を持つようになりました。

### 「成績優秀者」

先日、前セメスターの成績優秀者が発表され、表彰式が行われました。嬉しい事に自分もこの優秀者に選ばれました。大喜びしたいところですが、これには少し訳があります。実のところ、1 年生の成績優秀者の半数以上が留学生です。主な理由として、学部の授業と、ESL（英語を母語としない人向けの英語の授業）の評定が同じ評価をされているからです。レポートや研究など決まった答えのない学部の授業に対して、文法やリスニングなど答えのある ESL はどうしても点が取りやすいのです。表彰式に集まった他の留学生と、ちょっと申し訳ない気持ちになるねと話をしました。

2 年生以上は留学生も ESL がなくなるため、正真正銘の成績優秀者が選出されています。アメリカは、日本と比べて成績によるスカラシップ制度が多くあります。年間の学費が 300 万円近くする、このフィンドレー大学を何のスカラシップも無しに卒業するのは、全ての家庭に可能と言うわけではありません。表彰されていた学生の嬉しそうな姿には、努力が評



成績優秀者名簿

働かれた喜びだけでなく、勉強を安心して続けられるという気持ちも含まれているのだろうと感じました。また、こうしてアメリカに留学を出来ている自分の環境にも改めて、感謝の気持ちを持ちました。

#### 「ハムトラミック」

ハムトラミックというムスリムが多く暮らす街に、出張授業に行つてまいりました。他の日本人留学生と共に、小学校と高校を訪問し、それぞれ日本文化と日本の現代社会の授業をさせていただきました。得に印象に残っていることは、他者を受け入れる姿勢です。こちらの小学校は、生徒の2割程度が英語を話すことが十分にできず、勉強中という特殊な環境です。英語が話せる(先生の話が理解できる)生徒と、そうでない生徒が混ざり合う中で、自然と他の



現地の小学生たちとカルタをしています

子を助ける姿勢があることに驚きました。移民大国といわれるアメリカにも、言語に関しては多様な考え方があります。一つの典型的な例としては、アメリカに住むからには英語を話せるようになることはマナーだという考えです。これに対して、人はその人の言葉で生活する権利があるという考え方があります。前者の考えを持つ人と接するときは、日本では経験をしたことのなかった、ただ生きているためにも「英語を話す」条件が必要という状況は、プレッシャーでもありました。ここ、ハムトラミックで英語が話せなくとも、周囲がそれを受け入れる様子を目の当たりにして、今までの辛かった思いがすつと、どこかに行ったような気がしました。